

創立記念月間も、最後の週を迎えました。恵み溢れる毎週の日曜日を捧げることができたこと、心より感謝いたします。今朝は、大学生の谷沢直大兄の証しがあります。4月からは新しい仙台での生活を始められる兄弟に、祝福を祈ります。

受難節を覚えて

先週から、早くも受難節を迎えています。毎年この時期は、CSの教案「成長」と連動して、聖書を開いています。今朝は捕囚の時代、登場人物はネヘミヤです。

エズラ・ネヘミヤは、この教会の新会堂建築を進めていた時、毎週の伝道夕拝で取り上げていた箇所でした。古い週報を開くと、2017年1月28日にこの箇所から説教をしていました。司会は玉村兄、その週の祈祷会は、説教が市原先生、司会が東愛子姉（ちなみに今朝は東姉の命日です）。翌週の礼拝の司会は水谷姉、婦人部から証しを藤木美佐姉がされています。懐かしい名前ばかりで胸いっぱいです。

ネヘミヤは、ペルシャ王の献酌官という、大企業の社長秘書のような高い地位を持つ優秀な人物でした。しかし、その地上の栄誉をかなぐり捨てて、祖国の復興と再建のために、信仰と私財を注ぎ込んだ人生を送った人物です。彼の言葉には情熱があり、その記録にはドラマがあります。受難節の始まりにふさわしい箇所です。

この新会堂が完成するためにも、当時様々な障害や試練、ドラマがありました。人生における最高の幸せは、きっと苦難がないことではなく、それを乗り越える導きを与えられることだと思います。願いを成し遂げてくださる主が共にいてくださるといふ確信は、何にもまさる私たちの希望の光です。

信仰の戦い

人気ドラマには、何回も山場があります。主人公が成功ばかりする物語は、神話か自慢話で、聞いている人には結果が読めて面白くありません。まさかと思える展開、仲間の失敗、人間関係のもつれ、新しい敵の出現、主人公のピンチ、そして、それにも負けない不屈の精神、一筋の希望、そして悲願の達成と大円満、となるから私たちはハラハラドキドキしながら、楽しめるのです。私たちの人生が、挫折や落胆に満ちていることを、このことは裏付けています。

ネヘミヤの直面した問題は、サンバラトとトビヤという陰険で狡猾な敵対者との戦いに始まり、「城壁の再建などできません」という同胞の士気低迷、また私腹を肥やすことしか考えない士族への制裁、ネヘミヤへの個人攻撃と罠、読んでいるこちらが押し潰されそうです。しかし、それを刹那の祈り、涙の祈り、自らが先頭に立つその姿勢を貫くことによって、見事に城壁を完成させた、主の栄光を表すネヘミヤの姿が最後には記されています。創立記念の最後の週、そして受難節の始まりに、「主により頼み、壁を乗り越えてゆけ」という力強いメッセージを受け取りましょう。